

研究概要

I 研究主題

「夢をもち、夢を実現する子ども」

1 研究主題設定の経緯

本校は、創立 138 年の伝統をもつ学校である。学区は、横浜駅西口やみなとみらい地区等の新しい商業地域が近くにある一方で、伝統の技を受け継ぐ職人が腕をふるう老舗や地域に根差した商店街があり、昔ながらの雰囲気が残っている。周辺には、横浜市中央図書館や掃部山公園、野毛山動物園等、教育施設や緑豊かな場所がある。地域には、子どもたちの登下校を見守りあいさつや会話を交わしてくださる方や、子どもたちの学習活動や発表に励ましの言葉をかけてくださる方、子どもの質問や依頼に笑顔で答えてくださる方等、本校の卒業生やその保護者をはじめとして、学校と共に歩んできた地域の方々が多くいる。

こうした恵まれた環境の中で、戸部のまちの「ひと」「もの」「こと」との関わりを通して、自ら課題を設定し、追究し、振り返りながら学びを連続・発展させていく探究的な学習活動に取り組み、新たなものの見方や考え方を獲得・創出しながら自分の生き方や考え方を見つめ直す子どもを目指し、平成 15 年より生活科・総合的な学習の時間（以下、総合）の研究に取り組んできた。その成果として、地域との関わりを大切にしながら、そこに住む人々の幸せを願い、学級の仲間と共に、主体的・探究的に学びを展開しようとする子どもの姿が見られるようになってきている。

一方で、その間にも子どもたちを取り巻く状況は刻々と変化し続けてきた。学習指導要領の改訂も含め、生活科・総合に求められることやその在り方も、研究当初からは少しずつ変わってきている。その背景にある現在の社会に目を向けると、環境・エネルギー・国際問題・少子高齢化等、多様な問題が存在する。子どもたちが暮らす戸部の地域も例に漏れず、高齢化による担い手不足や身近な自然環境の減少、地域の防災に関わる諸問題等、解決の難しい問題がある。

そのような中で、地域と関わることや自分たちのやりたいことをやり抜こうとすることが、本校の生活科や総合の、いわば文化として定着しつつある今こそ、目の前にいる子どもたちには、社会や地域にある諸問題としっかりと向き合い、解決していこうとする大人になってほしいと考えた。以上のような経緯から、研究主題を「夢をもち、夢を実現する子ども」と設定した。

2 研究主題の意図

「夢をもち」とは、真に意味や価値のある、よりよい「～したい!」という思い・願いをもつことである。そのためには、自分のみならず、家族、友達、地域等の肌で感じることのできる隣人、ひいては社会、日本、世界、さらには環境、未来といった、ありとあらゆる他者のことを考えられることが重要である。そしてそれは、あらゆる他者との関わりの中で様々な事実や価値観に触れ、それらに関連付け、深めながら、見方や考え方を更新・形成していくことで可能になる。

また、夢が夢のまま終わっては子ども自身が生きていく社会やそこでの生活は子どもの願うものにならない。「夢を実現する」ために必要な主体的に粘り強く追究しようとする態度や問題解決の過程が必要となる思考力、判断力、表現力等の力を子どもたちに育てていく必要がある。

以上のような考えに基づき、「夢をもち、夢を実現する」ための、目指す子どもの姿については、これまでの実践や新学習指導要領等を踏まえ、学校教育目標に沿って、次の通りに整理した。

【夢をもち、夢を実現する子ども】

- i 戸部のまち（子どもたちの家庭・学校・地域における、実生活の営みや実社会との関わり）や自分自身を見つめ直し、よりよい戸部のまちを目指して夢をもち、その実現に向けて粘り強く追究する。
くゆめいっぱい戸部>
- ii 夢の実現に向けて、課題を見出し、その解決に向けて構想を立てて、方法を吟味しながら情報を収集し、それをもとに分析的に思考し、判断したり表現したりする。
くそれぞれが飛べ>
- iii あらゆる他者と対話を通して双方向的に関わり、相手のことを理解し、信頼し合いながら力を合わせて取り組む。
くみんなで翔べ>
- iv 対象のもつ意味や価値を理解したり、自分自身の成長や変容に気付いたりし、戸部のまちに対して、さらに、よりよい夢を描き、実現しようとする。
くゆめいっぱい戸部>

「夢をもち、夢を実現する」ということは、現実を直視し、そこからよりよい実生活の営みや実社会との関わり方を模索し、未来図を描いて、一步一步着実に現実に変えていくことである。

3 夢をもち、夢を実現する子ども（系統表）

目指す子どもの姿 <視点>		低学年	中学年	高学年
それぞれが飛べ	<課題の把握> 夢の実現に向けて解決すべき課題を見出して設定し、その解決に向けて、構想を立てる。(推論、見通し、順序立て等)	夢を実現するために何をすればよいか考えたり、必要なものを準備したりしようとする。	夢の実現に向けて、今、何をすべきかを明確にもち、またそのために必要なものを準備したり、取組の順番を考えたりする。	夢の実現に向けて、見通しをもって解決すべき課題を設定し、予想や仮説を立て、必要なもの・ことを具体的に順序立てて構想を立てる。
	<情報の収集> 手段を選択したり方法を工夫したりしながら情報を収集する。	身体を通して関わったり、対象に直接働きかけたりしながら、比較したり、分類したり、関連付けたりと、視点を変えたりして対象を探え、違いやよさを見つける。	課題に沿って他者と関わったり、試行錯誤したりするなど、方法を工夫して情報を集める。	課題に沿って他者と関わったり、方法を吟味し、工夫し、体験したり、調査したりして情報を集める。
	<整理・分析> 課題に沿って、収集した情報を整理し、整理・分析し事実を捉える。(比較、分類、関連付け、焦点化等)		比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実を捉える。	比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理したり、課題に沿って判断するために必要なことを焦点化したり捉え直したりする。
	<まとめ・表現> 整理・分析して捉えた事実をもとに、課題に沿って、自分の考えをもつ。(評価、選択、順位付け等) また、必要に応じて方法を工夫しながら相手や目的を意識して表現する。(要約、構造化、理由付け等)	よさを生かしたり、試したり見立てたり予測したり、見通しをもったりして創りだす。また、相手に伝わるように様々な方法で表現したり、相手にとって分かりやすく表現したりする。	課題に沿って、理由付けしながら、評価、選択、順位付けを行ったり、要約、構造化したりする。また、自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。	課題に沿って、焦点化された事柄について、理由付けしながら、評価、選択、順位付けを行ったり、要約、構造化したりする。また、自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。
みんなで翔べ	<協働> 夢の実現に向けて力を合わせて活動に取り組む。	友達と一緒に、互いのことを気にかけて合いながら協力して活動し、そのよさを感じ取る。	友達の存在を意識し、一緒に活動するよさを大切にしながら、課題の解決に向けて力を合わせて活動する。	友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支えあったりして力を合わせて活動する。
	<対話> 仲間や対象と双方向的に関わり合う。	互いのよいところを見つけて共感したり、自分と違う意見や考え方があることに気付いたりして、それを自分の考えに生かそうとする。	相手が伝えようとしていることを意識しながら聴き、自分の意見と比べよさや違う点を見つけたり、つなげたりしようとする。	相手の立場や意図を意識し、自分の考えと比較しながら、批判的に聴いたり、共感できる部分を見つけたりし、一緒に新たな見方や考え方を生み出そうとする。
ゆめいっぱい戸部	<自己理解> 自己の成長や変容を見つめ直し、可能性に気付いたり、自信をもったりする。	体験や活動を通してできるようになったことや新たに分かったことを見つめ直し、その変化や成長に気付く、自信をもったり自分らしさを大切にしようとしたりする。	課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、新たな解決の仕方やものの見方、考え方が身に付いたことに気付き、自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。	課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、解決の仕方やものの見方や考え方が変化・成長したことを自覚し、自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。
	<気付き> 追究を通して出会う、戸部のまちの「ひと・もの・こと」のよさに気付く。	追究を通して関わった対象の不思議さや楽しさ、自分との関わりに気付く。	追究を通して関わった対象のもつ意味や価値、学習活動を支えたり見守ったりしてくれた人々の存在等、戸部のまちには魅力的な「ひと」「もの」「こと」があふれていることに気付く。	
	<思い・願い> 戸部のまちに夢をもち続け、その実現に向けて、主体的に、粘り強く追究し続ける。	自分自身の家庭や学校・地域での生活を振り返り、やりたいこと(=夢)を見つけ、よりよい活動や生活を目指して自分から進んで取り組もうとする。	生活経験や学習経験を見つめ直し、興味・関心のあることから、自分たちの力で成し遂げたい目的(=夢)をもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。	生活経験や学習経験、実社会の問題等を見つめ直し、戸部のまちにとって意味や価値があると考えられる目的(=夢)を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。

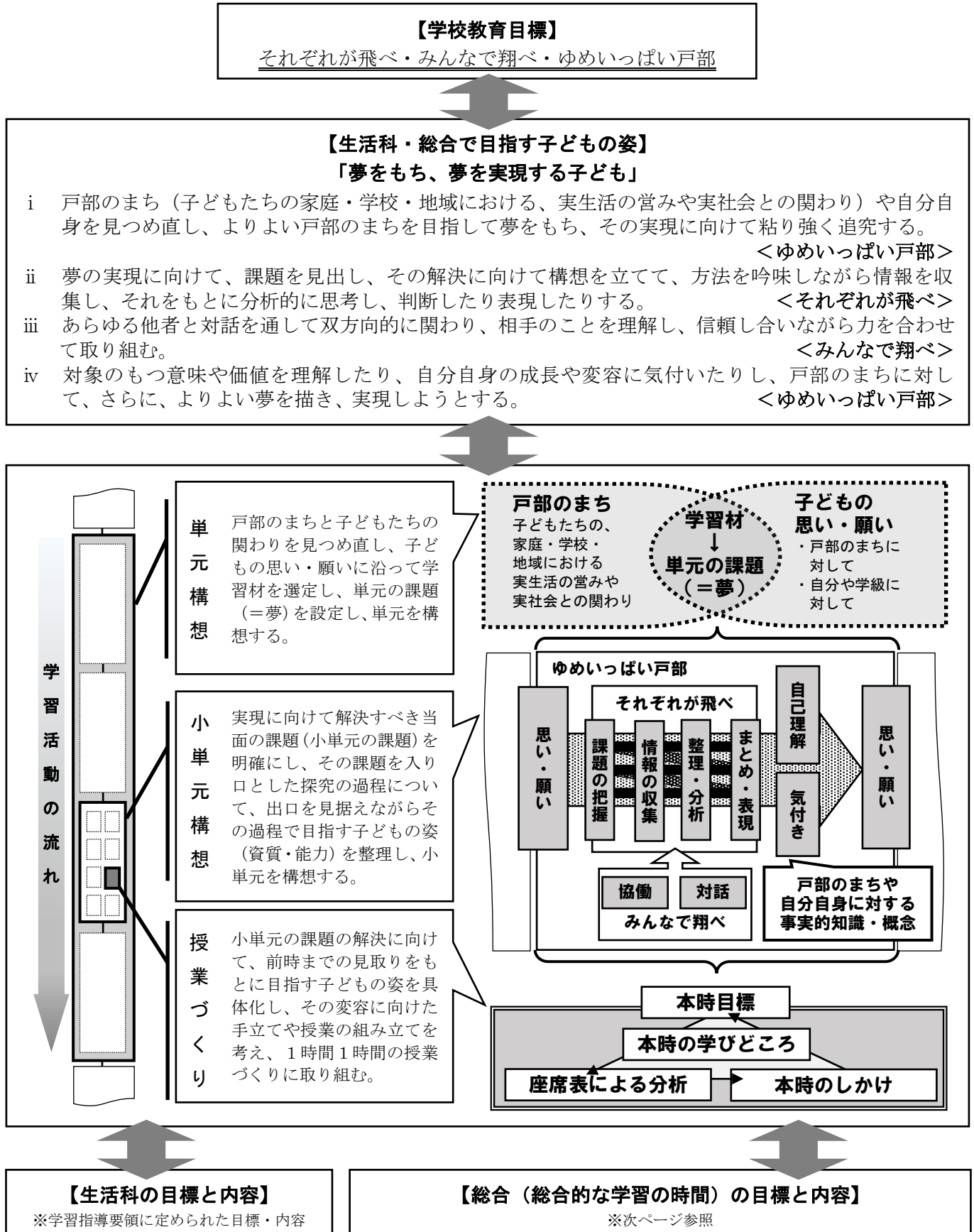
4 戸部のまちの「ひと」「もの」「こと」の視点

全学習材に共通	地域・学校	<ul style="list-style-type: none"> 戸部のまちには、魅力的な「ひと」「もの」「こと」がたくさんあふれているということ。それらは、自分たちの生活とつながっていて、自分たちの生活を豊かで持続可能なものになっているということ。 自分も地域や学校、家庭の一員として、よりよくそれらと関わっていく必要があるということ。
	キャリア	<ul style="list-style-type: none"> 地域には自分たちの活動を温かく見守り、支えてくれる人がたくさんいるということ。 身の回りには優れた知恵や技、熱い思いをもって、真摯に仕事や取組に打ち込んでいる人がいるということ。
各学習材に固有	環境・生命	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの自然環境(身近に存在する動植物等)は、自分たちの生活を含め、つながり、関わり合っているということ。 身の回りの自然環境(身近に存在する動植物等)は有限で、大切に守らなければならないということ。
	文化	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りには先人が築き上げてきた様々な文化(事物)があり、そこにはその文化に固有の思いや知恵が凝縮されているということ。 自分が属する文化とは異なる文化が存在し、そこには尊重すべき見方や考え方があるということ。
	ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの手で何かを創り上げたり成し遂げたりすることで生活が豊かで持続可能なものになるということ。
	防災・安全	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りには、自分たちが安全に、安心して暮らせるような様々な仕組があること。また、そのために努力している人がいるということ。
	食・健康	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活の中には、健康に生きていくための知恵や、それを普及していくための取組等があるということ。
	福祉	<ul style="list-style-type: none"> 地域には多様な人が暮らしていて、互いに支え合い、尊重し合っていること。またそのための仕組があるということ。

II 研究内容～研究主題を具現化するために～

研究主題に示した、「夢をもち、夢を実現する子ども」の具現化に向けて、「単元構想・小単元構想・授業づくり」の三つの柱で研究に取り組む。そのプロセスを通して、子どもの夢の実現を目指し、目指す子どもの姿に迫っていく。研究主題を具現化するための研究内容は、実践に反映させてこそ意味のあるものになる。その考えに立ち、研究内容については、実践の拠り所となる学習指導案の項目に沿って、整理していく。

【研究構造図】



【本校の総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、戸部のまち（子どもたちの家庭・学校・地域における、実生活の営みや実社会との関わり）にある「ひと」「もの」「こと」に関わる学習を通して、戸部のまちに対して、よりよい社会や生活を目指して思い・願い（＝夢）をもち、その実現に向けて考え、行動し続けることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題を解決するために必要な知識及び技能を身に付けるとともに、戸部のまちの「もの」「こと」にはそれぞれ固有のよさがあることや、それが他の様々な「もの」「こと」との関係や、それを支える「ひと」の行動によって成り立っていることに気付き、戸部のまちのよさについて理解を深める。
- (2) 戸部のまちに対する思い・願いの実現に向けて、見通しをもって課題を把握したり、その目的を自覚しながら方法を吟味して情報を収集したり、得た情報をもとに課題に沿って整理・分析し、判断したり、目的や相手を意識しながら表現したりする力を身に付ける。
- (3) 戸部のまちに対して思い・願い（＝夢）をもち、その実現に向けて粘り強く、あらゆる他者と対話を通して双方向的に関わり、相手のことを理解し、信頼し合いながら力を合わせて取り組もうとする態度や、対象のもつ意味や価値を理解したり、自分自身の成長や変容に気付いたりし、戸部のまちに対して、さらに、よりよい夢を描き、実現しようとする態度を養う。

【本校の総合的な学習の時間の内容】

学年	探究課題	事实的知識、概念	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学年	戸部のまちにある身近で具体的な「もの」「こと」のもつ意味や価値と、その対象を通して関わる戸部のまちの「ひと」の考えや行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの「もの」「こと」には面白さや楽しさ、豊かさ等、それぞれの対象ならではの特徴があるということ。 <固有性…ならでは> ・身の回りの、「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」とのつながりの中で形成されたり、存在したりしているということ。 <関係性…つながり> ・身の回りには、対象の魅力を積極的に楽しんだり、守ったり、伝えたり、広めたりするための「ひと」の知恵や技、取組がある、ということ。 <行動性…いとなみ> ・戸部のまちには自分たちの生活や社会を楽しく豊かなものにするための「ひと」「もの」「こと」があふれている、ということ。 <地域性…戸部のまち> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて、今、何をすべきかを明確にもち、またそのために必要なものを準備したり、取組の順番を考えたりする。 <課題の把握> ・課題に沿って他者と関わったり、試行錯誤したり方法を工夫したりして情報を集める。 <情報の収集> ・比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実を捉える。 <整理・分析> ・課題に沿って、理由付けしながら、評価、選択、順位付け等を行い、自分の考えをもつ。また、自分の伝えたいことを明確にし、方法を工夫しながら伝える。 <まとめ・表現> 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達存在を意識し、一緒に活動するよさを大切にしながら、課題の解決に向けて力を合わせて活動する。 <協働> ・相手が伝えようとしていることを意識しながら聴き、自分の意見と比べよさや違う点を見つけたり、つなげたりしようとする。 <対話> ・課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、新たな解決の仕方やものの見方、考え方が身に付いたことに気付き、自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。 <自己理解> ・生活経験や学習経験を見つめ直し、興味・関心のあることから、自分たちの力で成し遂げたい目的（＝夢）をもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。 <思い・願い>
高学年	戸部のまちの「ひと」との関わりを通して見つめ直す、身近な「もの」「こと」のもつ意義や問題と、その発展や解決に向けた行動・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会にある「もの」「こと」には、魅力や問題等、それぞれの対象ならではの特徴があるということ。 <固有性…ならでは> ・地域社会にある、「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」と多岐に関わり合う中で、形成されたり、存在したりしているということ。 <関係性…つながり> ・地域社会には、対象の魅力を保守、維持、発信したり、不安・問題・困難を解決、解消したりするための「ひと」の行動や取組がある、ということ。 <行動性…いとなみ> ・戸部のまちには人々が関わり合いながら安心して豊かに暮らすことができるようにするための「ひと」「もの」「こと」があふれている、ということ。 <地域性…戸部のまち> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて、見通しをもって解決すべき課題を設定し、予想や仮説を立て、必要な「もの」「こと」を具体的に順序立てて構想を立てる。 <課題の把握> ・課題に沿って方法を吟味し、工夫し、他者と関わったり、体験したり、調査したりして情報を集める。 <情報の収集> ・比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理したり、課題に沿って判断するために必要なことを焦点化したり、捉え直したりする。 <整理・分析> ・課題に沿って、焦点化された事柄について、理由付けしながら、評価、選択、順位付けを行ったり、要約、構造化したりする。また、自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、効果的な方法を工夫しながら伝える。 <まとめ・表現> 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして力を合わせて活動する。 <協働> ・相手の立場や意図を意識し、自分の考えと比較しながら、批判的に聴いたり、共感できる部分を見つけたりして、一緒に新たな見方や考え方を生み出そうとする。 <対話> ・課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、解決の仕方やものの見方や考え方が変化・成長したことを自覚し、自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。 <自己理解> ・生活経験や学習経験、実社会の問題等を見つめ直し、戸部のまちにとって意味や価値があると考えられる目的（＝夢）を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。 <思い・願い>

1 単元構想

本校では、学級ごとに学習材を選定し、その学習材との関わりを通して実現を目指す単元の課題（＝夢）を整理し、学級ごとに単元を立ち上げる、いわゆる「学級総合」に取り組んでいる。そこで大切にしたいことは、「子どもありき」の考えに立ち、子ども自身が主体的に学習材を選定し、その学習材との関わりを通して実現を目指す単元の課題（＝夢）を練り上げることである。子どもの「自分たちで決めた総合」という誇りと責任が、その後の学習活動の大きな原動力となり、主体的な学びを生み出していく。そして、「実現できた！」という原体験が、次の学習活動へとつながり、その蓄積が、研究主題に掲げた「夢をもち、夢を実現する子ども」につながっていくと考えている。

単元構想は、①学習材（何で学ぶか）、②単元の課題（何のために活動するか）、③単元で育てたい資質・能力（何を学ぶか、何ができるようになるか）、④単元の学習活動の流れ（どのように学ぶか）、以上4つの視点について明確にすることが重要である。

（1）子どもの思いと教師の願い

子どもの思い・願いに沿って学習材の選定及び課題の設定を行うために、学習材の選定に当たってはフィールドワークや共通体験等を効果的に取り入れることも考えられるが、多くの場合、最終的な決定は話し合いによって行われる。しかし、やみくもに話し合わせていても価値のある学習材に絞られてはいかない。また、せっかくのよい発想が埋没してしまうことも考えられる。そこで、まずは総合で目指す自分や学級、目指す総合像について、子ども自身の言葉で整理し、学習材を判断するための条件・視点として整理する。その条件・視点に沿って、学習材を発想したり、判断したりする。

子どもの思いが見えてきたところで、教師自身も学習材の分析を行い、学習活動や具体的な対象、育てたい資質・能力等の視点から、拡散的に可能性を探り、目の前の子どもにとってどのような意味や価値があるのか、またその実態に合っているか、判断する。

（2）学習材

学習材とは、子どもの学習活動の中心となる「もの」「こと」である。学習材が決定したところで、教師は単元を構想するために、次の二つの視点から学習材について、さらに深く分析を行う。

- ・学習対象…単元において、子どもが探究的な学習に取り組む課題（単元レベルで具体化した探究課題）を中心に、その探究の過程で関わる具体的な「ひと」「もの」「こと」等。
- ・学習事項…探究の過程で子どもに気付かせたい事実的知識や、それらが関連付いて形成される、単元レベルで具体化した探究課題に対応する戸部のまちなに対する概念。生活科は、9つの内容をもとに整理する。

（3）単元目標

①単元を通して実現を目指す学習課題（＝夢）と、そのための中心となる学習活動、②その過程で育てたい資質・能力（特に、学びに向かう力・人間性等）の、二つの視点から整理する。特に総合においては、1年間70時間という長期間にわたる単元となる。その中で、その時々の子どもの思い・願いを重視するあまり、「活動あって学びなし」という状況に陥らないようにするためにも、活動の方向性と、そこで目指す子どもの姿を、単元を貫く柱として明確にもっておくことが重要であると考える。

（4）単元で育てたい資質・能力

生活科は、9つの内容から「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つの視点で、総合は、本校で定める内容をもとに、「事実的知識、概念」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの視点で整理する。

（5）単元の学習活動の流れ（生活科：本単元の位置付け）

学習材について分析する中で見えてきた期待する変容が見られる場面（学びどころ）を中心としながら、生活科は各単元、総合は各小単元どうしが、子ども自身の活動や思考の流れに沿って自然で、意味的に無理のないものになっているかを意識して、学習活動の流れを整理する。単元・小単元の課題と、その単元・小単元の出口の子どもの姿が意味的につながっているか、ということについても注意して整理する。

- ・学びどころ…子どもの見方や考え方が大きく変容する場面。自分自身や、戸部のまちな「ひと」「もの」「こと」に対する、それまでの見方や考え方が、学習活動を通して出会う情報や気付きによって、置き換わったり、関連付いたりして深まり、事実的知識に対する理解がより確かなものになったり、それをもとに概念が形成されたりする場面。
- ・関連する教科等…ここでは、他の教科等の各単元と内容のレベルで関連が図れるものについてのみ精選して記述する。関係（導入・習得、発展・活用）については、矢印の向きで示す。教科等の時間を生活や総合の単元に取り込む（合科的な扱いをする）場合には、単元名を一致させ、時間数を明記する。

【単元構想のチェックポイント】

- 戸部のまちに対する子どもの思い・願いが、その背景まで含めて捉えられているか。
- 総合においては、総合で目指したい自分や学級について、子どもの言葉で整理されているか。
- 単元を通して実現を目指す単元の課題（＝夢）が、子どもの言葉で、ゴールのイメージがもてる形で明確になっているか。
- 子どもにとって身近で繰り返し関わるができる具体的な対象が考えられているか。
- 学習材に対して造詣の深い、関わりが期待できる「ひと」が考えられているか。
- 子どもにとって学ぶべき意味・価値のある内容が分析されているか。
- 習得した気付きが関連付いたり、事実的知識から概念が形成されたりするような、新たなものの見方や考え方、生き方に迫るような変容が見られる「学びどころ」が分析されているか。
- 各小単元（生活科は単元）の学習課題が、意味的につながりのある、子どもにとって切実なものになっているか。
- 生活科では、子どもに身近な地域の固有のものが学習対象として分析されているか。
- 期待する子どもの変容が、迫りたい価値や次の課題とのつながりを意識して、具体的に想定されているか。

2 小単元構想

単元構想で整理した「学びどころ」を核とした、探究の一つ一つの過程について、その時点での子どもの問題意識をもとに、小単元の学習課題を設定し、「課題をもつ」「追究する」「振り返る」の3つの段階で、入り口と出口を明確にして構想を立て、それぞれの過程で身に付けさせたい資質・能力を、教科等との関連も意識しながら整理する。

同一の学習材で1年間継続して単元を展開しようとする時、年度当初の単元構想では70時間の全ての授業を細かく計画することは難しい。1年間という長い期間で単元を見てみると、子ども自身がその時々の問題意識や興味・関心を大切にあまり、最終的な目的まで辿り着かずに終わってしまうこともある（意図的に計画を変更することはもちろんあるが）。逆に、最初に立てた計画に固執してしまい、子どもの学習活動や思考の流れを無視して単元を展開してしまうような状況も起きかねない。そのようなことを避けるためにも重要なのは、子ども自身が「今、何のために、何をしているのか」ということを自覚していることであり、その子どもの姿を入り口として、学びどころに対してどのようにアプローチしていくのか、ということを確認する意味で、小単元構想が極めて重要であると考えている。

（1）小単元目標

基本的な考え方は単元目標と同じであるが、年間を見通した単元全体よりも短いスパンを対象として整理することから、課題がより具体的なものになり、育てたい資質・能力については、思考力、判断力、表現力等をより意識した形で整理することが重要である。

（2）見取りの視点と手立て

小単元の探究の過程を「課題をもつ」「追究する」「振り返る」の三つの過程で整理する。その意図は、単元の入り口と出口を明確にする、ということにある。「～したい」「～しよう」という単元の課題が入り口であれば、出口の振り返りの視点は「～できたのか」ということになりその検証を行うことになる。あるいは「～とは何か」という入り口であれば、出口は「～とは〇〇である」という結論が導き出されなければならない。場合によっては「～できたとはまだ言えないけれど、そのためには～が大事そうだ。」「～とは〇〇と言えそうだけれども、まだはっきりしないから、次は～する必要がある。」という形になることも考えられる。

このようにして入り口と出口を明確にすることで、そのプロセスについて具体的に考えることが可能になり、1時間の授業づくりを確かなものにしていくことにつながっていく。また、前後の小単元とのつながりを明確にすることができ、単元全体の中での位置付けが明確になる。

- ・見取りの視点…小単元の流れを意識しながら「夢をもち、夢を実現する子ども（系統表）」を拠り所としながら、できるだけ具体的に期待する子どもの姿をイメージする（「できている」「できていない」を判断できるように意識する）。
- ・手立て…主語を教師にすることを意識し、具体的に何をすることが分かるようにする。

（3）学習の基盤となる資質・能力を中心とした関連する教科等

これまで、関連する教科等を考える際には、例えば、「社会科の農業と、総合の米作り」といった、内容を中心に関連付けることが多かった。しかし、例えば「表やグラフを用いて表現する」等の情報活用能力や「相手や場面に応じた適切な表現方法を工夫して文章にまとめる」等の言語能力、「ベン図を使って分析する」等の考えるための技法等については、単元の学習活動の流れ（単元構想図）に示すには細か過ぎて膨大であり、表現し切れないところがある。そこで、後者については、より短いスパンで具体的に学習活動の流れを組み立てる小単元構想でこそ意識して整理できるものとする。

(4) 小単元の学習活動の流れ

基本的な考え方は単元の学習活動の流れと同じであるが、特に意識したいのは、最終的な子どもの姿が本小単元の課題に応じたものになっていること、そして、次の小単元の課題につながるものになっていることである。さらに、その間の一つ一つの課題を見て、意味的なつながりを読み取ることができるように学習活動が組み立てられていることが重要である。

- ・本小単元に臨む子どもの姿…小単元の入り口までの経緯を振り返り、教師自身が小単元の課題やその意図を自覚する。それによって小単元の学習活動の流れを、前小単元から意味のあるつながりのあるものにしていく。
- ・しかけ…学びどころを生み出すための教師の手立て。子どもの見方や考え方が置き換わったり、深まったりするように、新たな事実と出会わせるための学習活動の準備をしたり、収集した情報を適切に分析できるようにしたりすること等が考えられる。しかけが子どもにとって前後の学習活動とつながりの無い唐突なものにならないようにすることが重要である。

【小単元構想のチェックポイント】

- 見取りの視点が具体的な姿として分析されているか。
- 「夢をもち、夢を実現する子ども（系統表）」が網羅されているか。また、その内容として妥当か。
- 手立てが、見取りの視点に沿って、教師の具体的な行為として明確になっているか。
- 学習の基盤となる資質・能力を中心とした視点から、関連する教科等の学習活動が具体的になっているか。
- 「本小単元に臨む子どもの姿」が、それまでの学習活動や地域・家庭・学校での実生活に基づいて、どのような思いをもって、本小単元に臨んでいるのか、具体的に分析されているか。
- 小単元の入り口（＝小単元の課題）と、小単元の出口（＝学習課題を追究した結果）が対応しているか。また、次の小単元へのつながりが見えるものになっているか。
- 一つ一つの学習課題が、子どもの思考や学習活動の流れに沿っているか。また、意味的なつながりがあるか。
- 期待する変容が、見取りの視点をもとに、焦点化されて記述されているか。

3 授業づくり

前時までの子どもの学びの様子を見取り、小単元構想で設定した見取りの視点と照らし合わせながら本時目標を設定し、その目標に迫るために、1時間の核となる子どもの学びを生み出すための教師のはたらきかけ（＝本時のしかけ）を考え、その教師の意図を「本時の学びどころ」として整理し、1時間の授業の計画を立てる。

単元構想・小単元構想は、教師自身が協働的に、時間をかけて考えることができる。一方、授業は、目の前の子どもの学びの様子を見取り、その場で判断しなければならない。また、単元構想・小単元構想がいくら優れていても、子どもと一緒に学習活動を展開していく現場である、授業が適切に行われなければ、子どもの夢は実現されず、育てたい資質・能力も身につくとはいかない。研究主題を具現化していくためには、授業づくりが極めて重要であると言える。

もちろん単元構想・小単元構想を軽んじているということではない。それらを土台とし、意図的に授業の計画を立て、複線的に準備を行うことで、目の前の子どものために1時間の授業を意味のあるものにしていくことができ、さらに、その授業をもとに、小単元や単元の展開を見直していくことができるのである。

(1) 本時目標

小単元構想の見取りの視点をもとに育てたい資質・能力を意識し、前時までの子どもの学習活動や思考の流れに沿ったものになるように設定する。さらに本時目標が、そもそも単元や小単元の中でどのような意味があるものなのか、俯瞰して把握していることが重要である。それによって授業の中で見取りをもとに授業展開を判断することが可能になる。

(2) 本時に向かう子どもの実態

学習カードや活動の様子をもとに、見取った内容を具体的に記述する。総合においては全体を俯瞰し、本時の課題に対する全体的な傾向や、そのまとまりやつながり、核となる意見等を捉えることが重要である。生活科においては、一人一人の子どもが学習材とどのように関わっているか、個々の実態を捉え、それぞれに対してどのような変容を期待し、どのように教師が関わっていくかを考えることが求められる。

(3) 本時の学びどころ

単元の学びどころは、毎時間表れるものではないが、単元の全ての時間が学びどころにつながっていく重要な意味をもっている。70時間のうちの数時間の学びどころを意識するのではなく、意図的、計画的な1時間1時間の積み重ねとしての70時間の単元、という捉え方こそが単元の充実につながると考えている。そのためにも本時の学びどころを整理して授業に臨むことが欠かせない。

- ・座席表による分析…学級の状況について、本時目標と照らし合わせながら、よさや課題を分析する。
- ・本時のしかけ…座席表による分析をもとに、本時目標に掲げた目指す子どもの姿に迫るために特に重要

となる学習活動の一場面を明確にもち、そのような学習活動を生み出すための手立てを考える。

(4) 本時の展開

前時までの学習活動の流れの中で生まれた、子ども自身の言葉で整理された本時の課題(入り口)と、1時間の授業を通して目指す子どもの姿(出口)を明確にもち、そのプロセスを整理する。その際には、考えるための技法を意識し、拡散する場面か、収束する場面か、比較する場面か、関連付ける場面か…等の子どもの思考の流れや組み立てが見えるような整理の仕方(板書の在り方)や、そのような思考を行う学習形態(個・グループ・全体)、また、学習を深めるための教師の発問等意識する。

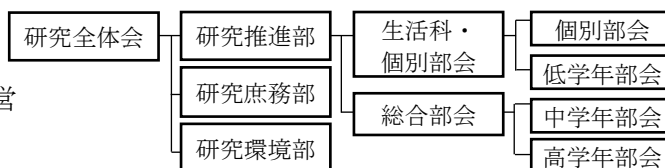
【授業づくりのチェックポイント】

- 本時に向かう子どもの姿が、教師の意図を反映させ過ぎることなく客観的に捉えたものになっているか。
- 座席表による分析が、本時目標に照らし合わせて分析されているか。また、学級全体と個々の両面から分析されているか。
- しかけが、本時目標の中のどの部分を目指すものが明らかになっているか。また、子どもにとって自然で無理の無いものになっているか。
- 本時課題が明確になっているか、また、妥当か。
- 子どもは本時に向けてどんな思いをもっているのか、何をしたいのか、ということが正しく捉えられているか。また、子どもが本気で話し合ったり、取り組んだりしたいことになっているか。
- 子どもの思考や学習活動が具体的に想定されているか。
 - ・内容：分類、選択、対立、原因と結果、事実と感想のつながり、項目に対する評価等
 - ・形式：座標軸、表、矢印による関連付け、色による分類等
 - ・集団：個(ワークシート等)、グループ(ホワイトボード等)、学級全体(黒板等)
- 場の設定、提示する資料、取り上げたい発言等、多様な視点から手立てが考えられているか。
- 座席表による分析等をもとに、授業展開が複線的に考えられているか、また、それぞれの状況に応じた多様な手立てが考えられているか。
- 本時目標の見取りの視点として、評価規準が分析されているか。また、妥当か。

Ⅲ 研究方法

1 研究組織

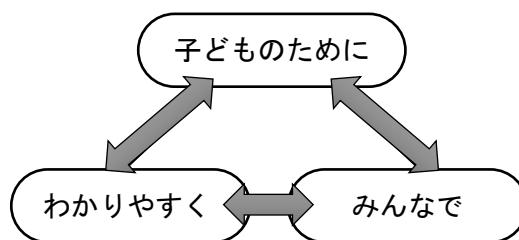
- ・研究全体会…研究計画・内容の決定
実践の共有
- ・研究推進部…研究計画・内容の立案・研修会の運営
- ・研究庶務部…指導案印刷・発送・情報発信
- ・研究環境部…教育環境整備
- ・各 部 会…指導案検討、授業研究会事前検討、授業後の協議会



2 具体的な取組～分かりやすく・みんなで・子どものために～

○分かりやすく～理論と実践をつなぐ～

- ・年度当初や夏季に理論の根拠となる、学習指導要領等の資料の内容理解のための研修会を実施する。
- ・理論については「何のために(研究主題)」「何をするのか(研究内容)」というシンプルな構造で整理し、また、実践の拠り所となる指導案との関連を明確にし、何のために、何をするのか、教師自身が自覚できるようにする。



○みんな～同僚性を大切にする～

- ・教材研究や指導案検討には、部会を中心に、必要に応じてその枠を越えて協働的に取り組む。そうすることで、職員同士が互いの実践に対して自分事として向き合えるようにする。
- ・授業研究会前の板書計画等を参加可能な全職員で行い、1時間の授業の意図を共有する。
- ・授業後の研究会では、よいところだけでなく、よりよい授業を目指し、キャリアや立場に関係なく、課題を中心に議論する。←課題も含めて互いの実践に自分事として向き合う姿勢があるから可能になる。

○子どものために～子どもの事実を常に意識する～

- ・授業研究会では、子どもの姿を中心として議論を行い、発言の記録等の事実をもとに成果と課題を分析し、授業改善を図り、その観点から単元構想や学習材を見直す。
- ・互いに授業を見合うことで、子ども観や指導観を共有する。
- ・年度末には授業を伴う研究会を行い、子どもの姿から1年間の成果と課題を分析し、次年度の研究へとつなげる